



基礎医学教育

医学の分野は、大きく基礎医学と臨床医学に分かれます。臨床医学は患者さんを診療するための分野で、内科学や外科学などが含まれます。一方、基礎医学は臨床医学の基礎をなす分野で、解剖学、生理学、生化学、細菌・ウイルス学、医動物学、免疫学、病理学、薬理学が含まれます。また法律上問題となる医学的事項を取り扱う法医学や、疾病の予防や社会的な健康の増進を図る遺伝医学・予防医学、衛生学公衆衛生学も基礎医学に含まれます。

医学は幅が広く奥が深い学問です。したがって、皆さんが医師になるまでに学ばねばならない知識は膨大です。この知識を6年間で効率的に学習するためには、秩序だったカリキュラムが不可欠です。本学では、入学直後から少しずつ基礎医学の勉強を始め、3年生で基礎医学を修了できるよう綿密なカリキュラムが組まれています。

基礎医学では、ヒトの体の正常な構造や機能を支える仕組み、それが破綻して病気が生じる仕組み、そして病気を予防・治療する方法を学びます。基礎医学で扱う内容の一部は、一般の生命科学とさほど変わりません。しかし医学は、人の病気を予防し、診断し、治療するという明確な目的を持った学問なので、この意味で一般の生命科学と異なります。基礎医学を修得することは、臨床医学を理解するために大変重要です。また基礎医学で学んだ生体への理解は、臨床医学の知識を実際の患者さんに適用するときにも大変役立ちます。

このように基礎医学は、教育の面から見ると臨床医学の前段階です。しかし歴史的には、まず臨床医学ができ、

